

私は民主連合を代表し、ただいま議題となっております核兵器禁止条約再検討会議へのオブザーバー参加を求める意見書案に反対する立場で討論いたします。

まずは誤解のないように申し上げたいのは、唯一の戦争被爆国として、核兵器廃絶に向けて、日本が積極的に行動すべきであるという理念には、深く共感しており、その責任を果たすべきであり、核兵器禁止条約再検討会議へのオブザーバー参加についても、国際社会においての日本の役割として前向きに検討すべき課題であると考えます。

また、日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞されたことは、被爆者の皆様の長年の活動が世界に高く評価されたあかしであり、心から敬意を表すものであります。しかしながら、本意見書については、国に対して野田市議会から提出する公式な文書としては、いくつか課題があります。

まず、国際情勢の認識に偏りがあります。意見書には、特定の国の行動を断定的に批判する表現が見受けられます。もちろん武力の攻撃は賛成できるものではありませんが、国際情勢は極めて複雑であり、核兵器の問題は安全保障、外交、歴史的背景が絡み合っています。単純化して論じる意見は、外交的なバランスを欠き、かえって国際的な信頼を損なうおそれがあります。

次に、日本が置かれている安全保障環境への記述が不足しているところです。

周知のとおり隣国によるミサイル発射や隣国の軍事的な動きなど、私たちが直面している現実の脅威に触れていない点は、非常に気になります。私たち日本人だからこそ言える核のない安全保障をどう築いていくかという視点が重要と考えます。

以上のような理由から、私はこの意見書の理念には理解しつつも、内容には慎重な姿勢をとらざるを得ません。より多角的で、現実に応じたバランスの取れた意見書を検討されることを期待し、この意見書には反対の立場で討論いたします。